

令和4年度 淡路市 認知症地域支援推進員活動報告

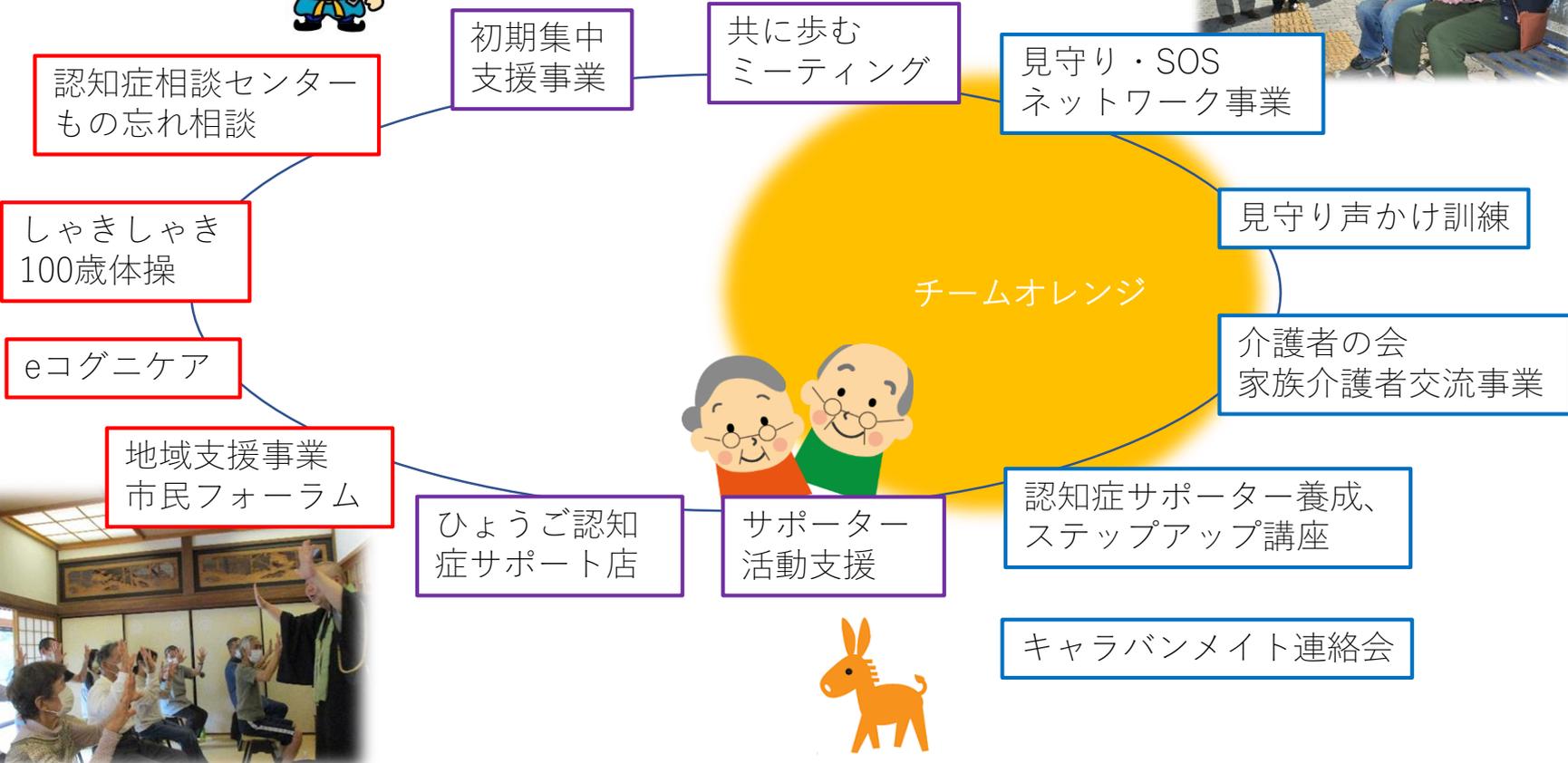
認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 6名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ◎医療・介護等の支援ネットワーク構築
 - ・ケアネットの普及
 - ・認知症の方が認知症の状態に応じて必要な医療や介護等のサービスを受けられるよう関係機関との連絡体制の構築
 - ◎認知症対応力向上のための支援
 - ・病院施設等における処遇困難事例の検討及び個別支援
 - ・チームオレンジ・認知症カフェ・家族会の支援
 - ◎相談支援・支援体制構築
 - ・認知症の方や家族等への相談支援
 - ・「認知症初期集中支援チーム」との連携による、必要なサービスが認知症の人や家族に提供されるための調整



報告者氏名： 井上詩織 松尾靖子

淡路市 認知症施策全体図



…一般介護予防事業

…包括的支援事業

…任意事業

標題) 認知症高齢者等の見守り、SOS ネットワークの充実について

【令和4年度の活動経過】

6月 チームオレンジメンバーと防災について話し合う。

最近、ゲリラ豪雨みたいな天気多いなあ

1人暮らしの人が多いけど、みんな備えてるのかなあ？

避難の基準が変わったの知ってる？



前に一緒に避難所に泊まったねえ

決められている避難所は利用しにくいよ

認知症地域支援推進員
防災関連の話題を投げかけたり、関係機関と防災講話の調整を行う。

8月 チームオレンジが開催するつどい場（認知症カフェ）で防災講話を実施。

非常時のために備えてることある？

緊急連絡先、薬、水…
子どもも近くにおらんし不安やわ



震災の時は避難所までの道も危なかった。もっと安全な場所はないかな

みんなちゃんと逃げられるかな？心配な人がいる！

10月 地域ケア会議でM氏の災害時の安全な避難について話し合う。

チームオレンジメンバーとケアマネージャーとの話し合いから、近隣で独居のM氏は必要な判断ができないので、災害時には支援を要すると思われた。

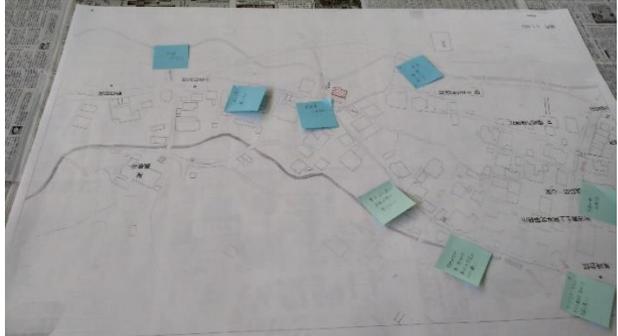
ケアマネージャー

M氏の個別避難計画策定。近所を含め、支援が得られそうな人と具体的な相談を行う。

認知症地域支援推進員

M氏の近隣者や他の災害時要支援者について民生委員や町内会長に聞き取りを行う。

11月 地域ケア会議にて関係者でM氏宅周辺環境調査を実施し、訓練計画を立てる。



12月 M氏を含む近隣5件の避難訓練（見守り声かけ訓練）を実施。

地域ケア会議にて訓練の振り返りを実施。

感想：避難時に声かけや支援が必要な住民を確認できた
避難時の持ち物やルートを確認できた。

自分にできることに気が付いた。
一次避難所よりも地域の公民館に避難したい。
その場合の手続きについて知ることができた。



【実施の効果及び課題】

効果：M氏の避難方法について地域で共有し、支援者を得ることができた。

（SOSネットワークの構築を図った。）

認知機能が低下している人への見守り、声かけの方法を学ぶことができた。

避難所開設について知り、公民館の改善につながった。（トイレ、備蓄品）

関係者が地域住民から、地域の防災上の特徴を学ぶことができた。

課題：高齢独居、認知症者を中心に検討したが、障害者についての想定を促すことができなかった。

防災意識に個人差が大きい。市民全体の防災リテラシーの向上を目指す必要がある。



• 最後に・・・

認知症にまつわる相談が増える中、家族や関係者の困りごとや意見が表立つことが多く優先されがちです。例えことばとして聞かれなくても、認知症の本人の声が大切であるということを忘れず、またそのことを周囲の人にも伝えていきたいです。本人や家族が孤立することなく、気持ちを分かち合っていけるよう仲間とつながる機会づくりを行っていきます。

認知機能の低下の有無に関わらず、暮らし慣れた地域の人と共に過ごす時間を持ち続けることで、幸福感を得られるような地域づくりを目指したいと思います。